

近江米新品種について

1. 背景

滋賀県では、気候変動や需要の変化に対応するため、生産者が作りやすく、より安全・安心で美味しい近江米新品種の育成を進めて来ました。13 年にわたる取組の末、現在 2 つの候補「滋賀 82 号」「滋賀 83 号」まで絞り込み、令和 5 年度にどちらか一品種を新品種として登場させる予定です。

2. 新品種の特徴

- ・食味、品質、収量に優れる中生品種(コシヒカリよりも収穫時期の遅い品種)
- ・オーガニック栽培をはじめ農薬や化学肥料を極力使わない環境こだわり栽培に限定

※「みらいの近江米」特設サイト《10 月新規開設》

新品種の開発秘話などについての情報を発信しています。



[「みらいの近江米」特設サイト](#)

3. 名称の応募状況とこれまでの経緯

今回の新品種の名称については、まずプロのライターに新品種名称候補を提案いただき、8 月に選考会議を開催して「るるる」「みちる」「てとて」の 3 候補を選定しました。

続いて一般枠 3 候補を選ぶため、募集期間 10 月 11 日(火)～11 月 13 日(日)で約 1 か月間、新品種の名称候補を募集しました。その結果、**3,522 件の応募**がありました(「みずかがみ」名称公募は 401 件)。

4. 今後のスケジュール

11 月 24 日	「滋賀 82 号」「滋賀 83 号」のいずれにするか決定 名称選考会議にて応募作品の中から名称候補 3 点を選定
12 月下旬～1 月末	プロが推す名前 3 点+応募作品 3 点の計 6 点の候補で 一般投票
令和 5 年 2 月中旬	投票結果を踏まえて名称選考会議にて名称を決定
2 月下旬	決定した名称を発表
令和 5 年度	試験栽培・販売(プレデビュー)
令和 6 年度	本格栽培・販売(本格デビュー)

5. 新品種候補 2 系統について(参考)

裏面

水稻新品種候補2系統 「滋賀82号」と「滋賀83号」

1. 開発の背景

■ 県農業技術振興センターで育成した「滋賀82号」と「滋賀83号」は気候変動（高温や台風）に対応した新系統です。令和6年度の本格デビューを目指し、環境にやさしい栽培技術を取り入れて、消費者に選んでいただける新たな近江米品種となるよう現地ほ場での適性を検討しています。なお、令和4年11月中に収量や品質、生産者の意見等を基に1品種候補に絞り込みます。

2. 品種候補の特徴

両品種共通

- 食味は「コシヒカリ」と同等以上。
- 収量や玄米外観品質の他、耐倒伏性、高温登熟性にも優れ、台風や高温に対して安定した生産が可能。

「滋賀82号」

- 「にこまる」×「レーク65」。
- 中生の早熟期（成熟期は「キヌヒカリ」より約1週間遅い）。



「滋賀83号」

- 「にこまる」×「滋賀69号」。
- 中生の晩熟期（成熟期は「日本晴」とほぼ同じ）。



3. 新品種本格デビューに向けた取組

令和4年度 現地での実証栽培

ポジショニング調査

品種登録（出願）

※ 栽培データ等に基づき1品種に絞る。

令和5年度 現地での実証栽培

試作プレ販売など

県内6地域にて2つの栽培体系で取り組む。

- ① 環境こだわり農業のさらなる深化
 - ・ 施肥は有機質肥料のみ
 - ・ 出穂期の化学的防除を削減し、耕種的防除等に対応
- ② オーガニック栽培

県域において、より多くの農業者の協力を得ながら、新品種の現地での実証栽培に取り組む予定。